

天栄中だより

鈴鹿市立天栄中学校

510-0258 鈴鹿市秋永町 1839

Tel 059-386-0444 Fax 059-386-0445

校長 山中 喜宏

全国学力・学習状況調査の結果について

4 月 17 日(木)に、3 年生で実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果と分析(概要)と今後の取組についてお知らせします。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを考慮しつつ、ご家庭のご協力のもと、今後の本校の子どもたちの学力向上、非認知能力の育成等の取組に生かしていきます。

Ⅰ 教科に関する調査について

(1) 各教科の結果

	国語	数学	理科
本校	全国より 高い	全国より やや低い	全国より 高い
全国	54.3	48.3	503

※ 理科については平均 IRT スコアを表示

※ IRT スコアとは、生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度や測定精度)によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論。500 を基準値とする。

(2) 教科に関する調査問題別の「強み」と「弱み」

○：強み(平均正答率が 75%以上、または全国比 +5 以上)

●：弱み(平均正答率が 25%未満、または全国比 -5 以下)

【国 語】

- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。
本校:40.7% (全国:31.0%)
- 自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができる。本校:81.4% (全国:73.4%)
- 物語の初めに問いかけが示されているという表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。本校:86.9% (全国:80.0%)
- 文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
本校:11.7% (全国:17.1%)

【数 学】

- 式の意味を読みとり、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明することができる。本校:31.0% (全国:25.7%)
- 相対度数の意味を理解している。本校:47.6% (全国:42.5%)
- 素数の意味を理解している。本校:17.2% (全国:31.8%)
- 一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができる。本校:27.6% (全国:34.7%)
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。本校:38.6% (全国:45.2%)

【理 科】

- 火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身についている。本校:95.9% (全国:92.8%)
- 身の回りの事象から生じた疑問や見出した問題を解決するための課題を設定できる。本校:36.6% (全国:46.2%)
- 元素を記号であらわす知識及び技能が身についている。本校:35.2% (全国:44.9%)
- これまでに学習した知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身についている。本校:42.8% (全国:51.6%)

(3) 教科に関する問題形式別の「強み」と「弱み」

【国 語】

<強み>

- ・ 資料や文章に書かれていることを読み取り、それを根拠として使用することができている。
- ・ 表現の効果について捉え、より良い文章の構成や発表方法について考えることができています。

<弱み>

- ・ 根拠を明確にすることはできるものの、それらを用いて自分自身の考えを構築することが苦手
- ・ より正しい文章を書いたり、言語知識的な観点から推敲をしたりすることに慣れていない。

【数 学】

<強み>

- ・ 与えられた情報から特徴を分析して読み取る力。
- ・ 選択問題よりも短答式や記述式問題の方が強かった。

<弱み>

- ・ 知識・技能を問われた選択式問題
- ・ 関数領域
- ・ 数と式委の領域では、得意分野と苦手分野が分れた。「語句の意味」を問う問題が弱かった。
- ・ 自信がないと答えを書かない傾向があり、選択式問題の無回答率に見受けられた。

【理 科】

<強み>

- ・ 予想や考察を抵抗なく書くことができる。
- ・ 科学的な事物や現象を日常生活に結び付けて考えることができる。

<弱み>

- ・ 全体的に正答率が低め。
- ・ 既習事項を応用させて新たな問題を解くことが苦手。

2 生徒質問紙より

児童生徒質問紙は、児童生徒の生活や学習の様子をアンケート形式で問う調査のことです。生活の諸側面や豊かな心の育成に関わること、学習環境や授業等の教育活動などへの問いがあります。以下に、本校の結果と特徴をまとめました。

【豊かな人間性(自己肯定感、社会への関心等)や非認知能力(やりぬく力や自制心)に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国	全国との比較
わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているか	85.5	79.6	77.5	+8.0
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	89.6	78.6	77.3	+12.3
自分には、よいところがあると思う	88.2	86.8	86.2	+2.0
人が困っているときは、進んで助けている	91.7	91.1	90.9	+0.8
将来の夢や目標を持っている	67.6	68.8	67.5	+0.1
いじめはどんな理由があっても行ってもいけないことだと思う	97.3	96.4	95.9	+1.4
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.6	96.4	96.6	0.0
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	77.9	77.4	75.3	+2.6

※数値は、各質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合(%)

- 「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめはどんな理由があっても行ってもいけないことだと思う」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答が90%以上となった。このことから非認知能力のうち「社会性」の高さがうかがえる。
- 「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているか。」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。」「自分にはよいところがあると思う」の質問に対しても80%以上の生徒が肯定的な回答をしていることから、非認知能力の「やりぬく力」、「自制心」、「自己肯定感」の高さもうかがえる。
- 「将来の夢や目標を持っている」の質問には、67.6%の生徒が肯定的な回答をしているが、他の質問項目と比べると割合的に肯定的回答が低い。

【家庭生活（生活習慣、家の人との会話）に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国	全国との比較
朝食を毎日食べている	92.4	91.9	91.2	+1.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	85.5	82.7	81.0	+4.4
毎日、同じくらいの時刻に起きている	89.0	93.4	92.6	-3.6

※数値は、各質問に「している」「どちらかといえばしている」と回答した割合

- ほとんどの児童が、朝食を毎日食べています。
- 起床に関しては、国・県と比較すると朝の起床時間が一定でない生徒が多いことがうかがえます。

【学習習慣（家庭学習や自主学習）に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国	全国との比較
学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 【1時間以上との回答】	65.5	60.5	61.6	+3.9
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 【1時間以上との回答】	53.8	49.8	57.9	-4.1
学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む、教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) 【10分以上との回答】	33.8	36.4	40.4	-6.6
読書は好きですか	68.9	60.8	61.6	+7.3

- 家庭学習の時間に関して、1 時間以上実施している生徒の割合が国・県より高いものの 65.5%である。学校が休みの日については、国の割合を下回っている。
- 読書好きの生徒の割合は、国・県より高いものの、1 日に読書にかかる時間が 10 分以上と回答した生徒の割合は低く、読書習慣が身につけていないことがうかがえる。

3 今回の結果から今後、取り組んでいくこと

(1) 学習面に関して

- ・ 協働的に学ぶような課題（協働課題の設定、協働的で深い学び）を持たせた授業づくりを行う。
- ・ 個別最適な学びの充実を図るため、授業の中で自己選択や個人思考の場面や協働的な学びの後、自ら学びを振り返る場面等を設定する授業づくりを行う。
- ・ 生徒が学びたい、より詳しく知りたいと思う課題を授業で設定するとともに、年度初めに確認をした『家庭学習のてびき』を再度意識させることで家庭学習を行う習慣を身につけさせる。
- ・ 知識・技能分野については、小テストなどの実施で定着を図る。

(2) 学習習慣など、生活面に関した

- ・ 「つながり」と「まなび」のある学校を目指して、承認活動やつづり方作文、レジリエンス教育等を継続的に行っていきます。
- ・ 学校図書館の利用を促すとともに Chromebook を活用して電子書籍での読書も推奨することで、すこしでも読書量が確保でき、活字に触れる機会が増えるように生徒たちにはたらしかけていきます。